

2021年度

群馬県立女子大学 文学部 美学美術史学科

後期日程入学試験問題

小論文

試験時間は十三時～十四時までの六十分です。中途退室は認めません。

途中で気分の悪くなった場合は、黙って手を挙げて下さい。

問題用紙はこの表紙を含めて三枚、解答用紙は一枚です。それぞれが配られたら、指示に従って、解答用紙の所定の欄に受験番号と氏名を記入して下さい。試験開始の合図があるまで問題用紙の表紙をめくって問題を見てはいけません。

受験番号と氏名を記入し終えたら、静かに試験の開始を待つて下さい。

問題

次の文を読み、問いに答えなさい。

詩というものは、人間がどうしてもそこから抜けられない二つの制約からの解放という側面をもつ。ある特定の時間（現在）を生きることしかできないという「時間的制約」と、ある特定の一つの場所しか専有できないという「空間的制約」からの解放である。

よく知られた「年年歳歳花相あい似たり、歳歳年年人同じからず」などを思い浮かべればそれはすぐにわかる。来年の花の姿、来年の自分や人の姿が現れる。もちろん、そのようなイメージの旅が、再度その詩を詠む（読む）人物自体の時空に戻ることによって詠嘆は極まる、という構造をもつのだが、ともかく詠われる時空の制限を取っ払はらうというのが、詩の「特技」であった。

逆に、絵画の特技とは何か。それは、流れてやまない世界を、ある視点と時間で切りとることだった。これは例をあげるまでもなからう。そして、この特技が欠点と捉えられると、巻物の体裁をとった連続画面とか、異時同図法とかを考え出すわけである。

詩は、その特技（時空的拡散）を捨てて、あえて時空の集中に向かった。それが風景詩である。と同時に、それが絵画への接近であることも明らかであろう。

逆に絵画は、みずからの特徴であった時空的制約から抜け出そうとする。だからこそ、「詩」に寄り添おうとするのである。

（宇佐美文理『中国絵画入門』岩波新書、二〇一四年）

問い

「絵画への接近」、「詩」に寄り添おうとする」とあるが、それをふまえ、ある表現手段が別の表現手段へ「接近」すること、あるいは「寄り添おうとする」ことについて、具体例を挙げながら、あなたの考えを八〇〇字以内で述べなさい。